

会議等結果報告書			
会議区分	会 議 ・ 打合せ ・ 協 議	文書番号	102
		決裁期日	平成27年6月24日
名 称	平成27年第1回上富良野町協働のまちづくり推進委員会		
日 時	平成27年6月22日（月） 午後7時00分～午後8時50分		
場 所	保健福祉総合センター2階 研修室		
出席者	向山町長 協働のまちづくり推進委員12人（別紙名簿のとおり） 事務局：町民生活課 鈴木課長、自治推進班 谷口主幹、田中主事 合計16名		

**【司会：事務局 町民生活課長】**

・欠席委員及び委員の変更について報告を行う。

**◎ 町長あいさつ**

向山町長： 平成27年度最初の会議にお集まりいただきありがとうございます。また、日頃から協働のまちづくり推進に関して、熱心に取り組みいただいていることに対し感謝申し上げます。

平成21年4月1日に自治基本条例が制定されてから今日まで、協働のまちづくりを目指し取り組んでいるところであり、当推進委員会においても3度にわたるご審議をいただいています。

現在、少子高齢化による人口減少時代という大きな変革の波のなかにあります。地方の生き残る術を見出すべく各自治体においては総合戦略を策定すべく取り組んでいるところであり、当町においても今年度内の策定に向けて取り組んでいます。今後において自立できる自治体を目指すには地域力の向上が必要となります。当町が平成21年度から取り組んできた自治基本条例に基づく協働のまちづくりは、まさしく地域力向上に適した施策であると考えています。

委員皆様には、今まで積み重ねてきたものを土台にして、更に協働のまちづくりを進化させていただけるよう知恵をいただきたいと思います。日々の日常の活動そのものが自然と協働のまちづくりとなることを目指したいと思いますので、委員皆様の力が町民へのきっかけをつくっていただけると期待しています。大変ご苦勞をお掛けしますが、多くのご意見をいただけることをご期待申し上げます、今年度もよろしくお願いいたします。

**◎ 会長あいさつ**

持安会長： ご多忙中にもかかわらず、お集まりいただきありがとうございます。地方を元気にするためには新たに生まれ出るものが大切であり、その生まれ出るもののきっかけづくりとなるのが本推進委員会であるという思いで取り組んでいきたいと考えています。昨年度から多くの項目について協議いただいたところではありますが、今年度においても皆様方のご協力をお願い申し上げます。よろしくお願い致します。

[進行：持安会長]

## 議 題

### 1 「協働を推進する方策」の取組みについて

○会議の進め方…資料1について事務局（谷口主幹）から説明。

これまでの会議で整理された「協働を推進する方策の評価」資料から、更に取り組みを推進する項目を抽出し具体的方策について助言をいただく。本会議から2つのグループに分かれて密な話し合いをお願いします。（協議項目及び会議の進め方について了承）

2つのグループの司会進行は持安会長、佐川副会長が行い、記録は事務局が行う。

○協働を推進する方策の検討項目…資料2について事務局（谷口主幹）から説明。

本日の検討項目は、「1-5住民自治意識の啓発・高揚」に関して、委員会の意見から「住民会等の役員育成と活動の活性化を図る」ことをお願いします。

○当日配布した資料「住民会の取組事例」「道町内会連合会の研修事業」について事務局（田中主事）から説明。

## ■グループ討議

「協働を推進する方策」の検討項目

分野 [町民・地域コミュニティ]

項目 1-5 住民自治意識の啓発、高揚

委員会意見：住民会等の役員育成と活動の活性化を図る

## 【持安会長グループで話された意見】

### ①自治会活動が盛んな地区を参考に活動の輪を広げる

- ・資料にある西富住民会のような先進的な取組事例があれば、もっと参考にすべき。
- ・ふれあいサロンなどが盛んな地区を見学し参考にすることも良い。
- ・郡部では若い人も含めて全戸が事業に参加することが昔から基本になっている。戸主が出られなくても代理の家族が参加するようにしている。（例として、地域の草刈りなど）
- ・福祉マップづくりなど、「集まること」「そこで人を知ること」「情報を得ること」が大切であり、福祉マップなどがうまく活用できるよう住民自ら作るよう動くことが大切。

その他「福祉マップ」について

- ・個人情報の取扱いから全戸に配布されていない状況がある。また、障害者の把握、独居老人の把握などが大切。個人情報の取扱いが問題となるため、相手の同意の取り方を工夫すればその情報を生かすことができる。

### ②自治活動を指揮するリーダーを育成する

- ・年1回は事業に参加することなど、役員会に参加することで役員としての自覚が育まれる。
- ・役員としての意識を高めること、持つことが大切。（いつかは回ってくる）
- ・例として、道社協にクリエイター養成講座（札幌で6日間講習）があり、これまで2人が受講し、ふまねっと運動や介護予防運動の普及拡大につながっている。費用負担（道社協1/2助成）はあるがスキルアップの機会になっている。人材育成の有効な機会であり、町でもこのような助成策や地域活性化を担う委員の養成等が進めばいいと思う。
- ・防災士の活躍が良く、責任感も高い。地域の防災を考える機会を作っていただいている。防災士は住民会の役員に位置付けし、会合にも参加している。

- ・一般的に地域の役に立ちたいと思っている人は80%と言われていて、潜在的に活動したい人はいる。

### ③隣近所など日頃からの支え合う意識の醸成

- ・まずは地域のことを知ることが大切で、地域を回ることが良い。
- ・隣近所の気遣いを持つことが大切。(電気が付いているか、除雪がされているかなど)
- ・転入転居した時に声をかけられるのは、参加するきっかけとなりいいと思う。なるべく早く声をかけることが良く、その時に世帯の把握ができればより良い。
- ・地域のどこに子どもがいるかわからないため、子どもマップ的なものがあれば声かけなどに役立つと思う。
- ・小さい時に地域の人からお世話になったことは、大人になってからも記憶として生かされるので、そのような関わりが大切。
- ・福祉マップなどは、隣近所の2~3戸から作成が広がるのが理想。(実際の手助けも隣近所が大切)
- ・まずは身近なところから活動の輪を広げること。

### ④住民会等役員の活性化とサポートする体制づくり

- ・住民会の役員の成り手が不足、頼んでも中々引き受けてもらえない状況。パソコンのできる人が望まれている。
- ・民生児童委員の持つ情報が住民会と一体になっていない状況が見られる。民生児童委員の守秘義務もあるが、うまく活用できれば福祉マップ等の作成が進むと思うので、(既に入っているところもあるが)住民会の話合いには民生児童委員も入ってもらうことが良い。行政においては、民生児童委員と住民会の情報の共有化が図られるような対応をお願いしたい。
- ・郡部の地域では、班長(役員)は輪番制を引いていて、班の戸数にもよるが約10年単位で班長が回ってくる。農家以外の人も結構いて、年齢や仕事に関係なく班長は回ってくる。
- ・班長の仕事は事業への参加者の取りまとめで、住民会の決定に基づき全戸が参加するよう声掛けしている。行事は少ないが参加者は多い。ゴミの管理も班長が担っている。いつかは班長が回ってくるので、普段の事業から参加するように意識している。(普段から参加していないと自分が班長を受けた時に声かけしづらく協力が得られない)。ある意味強制的な雰囲気のある参加もあるが、若い移住者の方などにも参加してもらっている。
- ・住民会長など代表の方が主体的なところは、活動も盛んと思う。
- ・いろんな人が何かの役員にあたるような仕組みも一つ。
- ・住民会等の総会資料の全戸配布など共有化することも大切。

#### 【佐川副会長グループで話された意見】

### ①自治会活動が盛んな地域を参考に活動の輪を広げる

- ・住民会でみまもり隊を結成しようとしたが、年齢層が高く結成できずに終わってしまった。
- ・会長や事務局長等、役員を担う方は活動に積極的でも、役員ではない会員の意識が薄く、活動が活発にならない。
- ・行事イベントに役員の方は役員という意識があるため参加はするが、若者の参加は少ない。住民会主催の新年会に、小学生の子どもを連れてくることはあっても、中学生になると参加はなくなり顔を合わせる機会がない。

- ・住民会活動の活性化として、ふまねっと運動を老人会と住民会の共同で行い、ふまねっと運動終了後にはお茶会を開き会話しながら交流を図る時間をつくっている。住民会からの参加も多く、活性化につながっていると感じている。
- ・老人会の代表がリーダーシップを発揮し、活動の一つとしてラジオ体操を行っており、80人を超える参加がある。ラジオ体操をすることにより、その場所に集まる人同士の「おはよう」などの声かけと顔を合わせることでコミュニティの活性化につながっていると感じている。
- ・地域住民同士での助け合いの連帯意識を高めるため、昨年、十勝岳噴火総合防災訓練をとおして住民会として初めて防災訓練を実施した。噴火警戒レベルが引き上げられたこともあったが、100人近くの参加があり、意識の高さを感じた。地域で行事を行うことで連帯意識を高めることが大事ではないか。
- ・自衛隊に勤めている方が役員を務めることが多い。自衛隊の方とのコミュニケーションがとりやすく、様々な活動の促進につながっている。
- ・防災関連や交流関連など住民会や町内会に加入の有無にとらわれないイベント行事を企画運営し、地域のコミュニケーションを図ることが必要であると思う。地域のコミュニティで必要なことを取りまとめていくことが大事ではないか。
- ・ふまねっと運動やラジオ体操等を行っている住民会の事業に他の住民会が参加できる機会を設けるとよい。そうすることで新たな発見により得られるものがある。地域に持ち帰り、自分たちの地域でできる可能性を探ることができる。
- ・新しいことをはじめようとするときは、高い意識を持った会員が動き、それがきっかけとなり周りを動かしていることが見られる。

## ②自治活動を指揮するリーダーを育成する

- ・リーダーは交代していくことが望まれるのだが、担い手がないのが現状である。組織内の事業を進めるにあたりマンネリ化を防ぐのには交代が不可欠である。
- ・代表やリーダーを選任するには、リーダーに選任できる人を組織内でピックアップし、本人から承諾を得たうえで様々な研修会に参加していただきリーダーとしての教育を図ることが必要である。

## ③隣近所など日ごろからの支え合う意識の醸成

- ・商店街の方々が主体となって道路等の花壇整備を行っている。そこに住民会が共催し、共同で整備を行っている。このような活動によって支え合いの意識は芽生えると思う。
- ・町内会に加入している自衛隊の方は多く、防災活動や福祉活動においても積極的であり、支え合いの意識は高く思われる。
- ・地域内にある公園緑地は、現在は公園緑地等維持管理事業により住民会が主体となり維持管理するようになった。住民同士で公園管理をすることで公園に愛着がわき、また集うことで顔を合わせ、話をする機会にもなり充実していると思う。
- ・ラジオ体操を行っていて、普段参加している方が急に来なくなると心配になる。周りの方の生活リズムの変化など地域住民の状況を把握することができ、地域での支え合いに繋がる活動にもなっている。

## ④住民会等役員の活性化（交代により様々な方が経験）とサポートする体制づくり

- ・昔は若者が多く住んでいた地域も高齢化が進み、若者が少なくなり、役員の担い手を探すのは

困難である。

- ・組織内でピックアップの手段で役員の担い手を探すことが求められると思う。

## 2 その他

次回会議は、7月13日（月）午後7時から同会場で開催することを確認。

本会で話された内容は、資料にまとめ次回会議で確認を行う。

**【会議録は決裁終了後、行政ホームページ、町政情報提供コーナーに公開】**